

九州大学病院

研修医 猿川 滯 2017年10月

九州大学病院地域医療研修プログラムとして10月にお世話になりました、研修医2年目の猿川滯(サルカワ ミオ)と申します。

昨年度出水総合医療センターで研修された先生方に勧められて、こちらでの研修を選択させていただきました。1ヶ月間という限られた期間の中で、出水総合医療センターを中心に、野田診療所・高尾野診療所・保健センター・上場診療所にて研修させていただきました。

鹿児島市内には幼い時に訪れた記憶があったのですが、出水市は今回初めてだったため研修は勿論のこと、研修外の活動も楽しみにしていました。上場高原で見たコスモス畑はとても印象に残り、秋を感じることができました。

さて、研修についてですが、すべてが目新しく印象深いものばかりでしたが、字数も限られておりますし一部分をピックアップさせていただきます。

まずは、各々5日間研修させていただいた野田・高尾野診療所についてです。野田診療所ではエコー、内視鏡などの検査を内村先生から手取り足取り指導して頂きました。また、外来診療見学では、限られた時間内での確かな問診、診察を行う大切さや1人1人に対し真摯に向き合っているからこそ内村先生と患者さんとの間の信頼関係の深さを垣間見ました。高尾野診療所では、慢性疾患の外来を経験させていただきました。今までの研修は病棟業務が中心であり初めての外来で戸惑いが大きくパニック状態の私でしたが、西元寺先生のサポートもあり何とかこなすことができました。予約外の患者さんが来院することもあるため、余裕をもって効率よく外来を回す必要があることを学びました。また、どちらの診療所も紙カルテであり、紙カルテでの診療は貴重な体験でした。

院内研修では小児科研修を中心に、看護部・臨床検査科・臨床工学科・リハビリテーション科・医療安全管理室・地域医療連携室・薬剤科などの講義や体験をさせて頂き、多くのことを丁寧に教えて頂きました。小児科では倉内先生、才田先生に大変お世話になりました。大学病院ではなかなか出会えない気管支喘息、川崎病といった common diseases を経験することができ、短い研修期間の中で将来につながる研修を行うことができたと感じております。また、各部署の講義・体験では改めて他職種の実際の現場を知ることができ、今後の医師としての生活に活かすことのできる非常に有意義なものでした。

上場診療所では僻地医療を経験し、月に2回しか診療がないため1回1回の診療で限られた時間の中で体調の変化を見逃さないことの大切さを学びました。

保険センターでは、妊娠・出産・子育てで悩む人々を孤立させないよう、地域全体で母子をサポートしていく体制を学び、思っているよりも多くの職種が関わっていたことを知りました。

最後になりましたが、大変お忙しい中、丁寧に指導して下さった皆様方に、重ねて御礼申し上げます。私も後輩達に出水総合医療センターでの研修を勧めようと思います。